

姫路獨協大学同窓会報

発行所／姫路市上大野7-2-1 姫路獨協大学同窓会
TEL (0792) 23-9263 FAX (0792) 23-6513

21世紀へはばたくH D U

学長

小室 豊 允



本年4月1日より、須田勇、西川知一、野口名隆先生に続いて、姫路獨協大学の第4代学長に就任した。

言語教育研究科、法学研究科、経済情報研究科の大学院も整備され、学生数も4500名となり、兵庫県下34校の4年制大学の内でも6番目の規模に成長した。

もともと姫路獨協大学の誘致は、姫路市の活性化のためにはかられたもので、その効果あって姫路市の人口は48万人に増加、尼崎市を抜いて、神戸市に次ぐ県下2番目の都市となり、そのねらいは成功したといえよう。

残念なことに、大学誘致の先頭に立たれた実質的な創始者である戸谷松司前姫路市長が6月26日に逝去された。天上でのご冥福を心からお祈りしたい。

ところで、一部に姫路獨協大学の地盤沈下ということが噂されているように聞く。たしかに少子化による受験生の減少はあ

る。しかし、こうした傾向は地方の私学に起こっている例外なき社会現象であって、そのことをもって地盤沈下というには当たらないであろう。

4月の就任直後から県はもとより岡山県まで足を伸ばし、約60校の高校を訪問したが、ほとんどのところで姫路獨協大学への期待を強く感じた。また、5月には経済情報学部で定員100名の経営情報学科を文部省に申請したが、その資料づくりのひとつとして、企業へのアンケート調査を行った。ここでも「姫路獨協大学の卒業生を採用してよかった」との声が圧倒的に多かった。

卒業生諸君の各分野での健闘にあらためて敬意を表したい。姫路獨協大学こそ歴史が比較的に浅いが、経営主体の獨協学園は、間もなく創立120周年を迎える伝統ある名門校である。私たちはその伝統の重みの誇りを持ちたい。

姫路獨協大学の同窓会は、創立10周年を記念して設立されたが、会員、役員のみなさんの熱意で、着々とその基盤を固めつつある。2002年には、創立15周年事業を企画しており、卒業生諸君の協力をお願いしたい。

INFORMATION

同窓会総会

と き／10月24日(日) 午前11時～
ところ／講義棟3F 316A教室
内 容／会計報告、事業計画発表、役員改選など
※総会終了後、正午から本部棟地下1Fの食堂にて懇親会を開きます。なつかしい友達、先生たちとの歓談をお楽しみください。会費は無料。
※お手数ですが、出欠の有無を同封のハガキにて、9月30日(木)までにご返送ください。
(FAXでも可)

志湧祭

「煌—きらめき—」
と き／10月22日(金)、23日(土)、24日(日)
主なイベント
ごちになります
ドキョリンピック
ザ・獨協番付
「MASCHERA」コンサート
10月24日(日) 午後5時～6時30分
※同窓生にはチケットを懇親会会場にて抽選でペア5組にプレゼントします。

初の卒業生評議員 が誕生

私立大学は、学校の設置を目的とした学校法人によって、それぞれの固有の建学理念のもとに設置されています。姫路獨協大学も、学校法人獨協学園によって、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という理念のもとに設置されました。

この学校法人は、私立学校法という法律により定められており、私立学校法では、学校法人の管理機関として役員である理事及び監事、並びに評議員会の3つを必置の機関と定め、学校法人の意思決定とその実行

はすべてこの3つの機関によって行われると規定しています。

この度、同窓会長の武本錠治氏（平成3年外国語学部卒）と同副会長の三笠哲也氏（平成3年法学部卒）の2人が姫路獨協大学の卒業生として初めてこの評議員会のメンバー（評議員）として選任されました。

今後2人が、学校法人獨協学園の経営管理、運営に、我々の代表として、母校の立場に立って意見を反映させてくれるものと期待されます。

卒業生だより



平成7年度法学部卒

圓尾 健太郎

（ウエルマート陶熊見店 水産担当）

卒業生のみなさん、いかがが過ぎでしょうか？私が大学を卒業して早いもので3年目を迎えております。思えば学生の頃は、毎日やりたい様に自由奔放に生活していた気がします。ある人が「文系の大学生で、時間はあるけどお金のないヤツほどつまらんヤツはない」と言っていました。私も「その通りだ！」と思ひ、ひたすら働いて、一生

懸命遊んでいました。おかげで、社会人予備軍だった私は親のありがたさ、お金の重みを改めて痛感したのを思い出します。こんな4年間でしたが、今回突然このようなものを書く事となり、時間に追われる慌ただしい毎日の中で、そうそう回想にふける時間もなかったけれど、この大学に行っていたからこそ出会えた仲間の事をふと思ひ出すすい機会を与えてくれたと思います。

みんな元気ですか？僕は仕事の都合で度々みんなと出会った

りしにくいけど、結婚後の近況を報告させていただきます。

8月に子供が産まれる予定です。こんな僕が親になるというのも、何か子供に悪い気がするけど、もう親父になり頑張っている友人を思い出すと、僕も頑張らなきゃと思います。親のスネをかじって「人生の夏休み」という大学4年間を与えてもらえた。そしてみんなに出会えた。これから産まれてくる子供にもいっぱいの宝物を見つけてもらえるよう、未熟な親父やけど頑張るで。みんなも体に気をつけてな。また会いましょう。

最後になりましたが、21世紀に向けて世の中も様々な分野で激動し、またそれによる歪みも生じていますが、母校のますますの発展を願っております。（7月に原稿を頂きました。）

獨協会 市民フォーラム 「大学はどこへ行く」 —激動の時代における大学の役割—

18歳人口の減少、長引く経済の低迷、産業界の雇用不安の深刻化など大学をとりまく環境はきわめて厳しい。大学志願者の全入時代が到来し、崖っぷちに立つ大学教育はどう変わろうとしているのか。大学は何を求められているのか。企業は何を期待しているのか。

新しい大学と大学教育のあり方について考える。

日 時／平成11年10月15日(金) 14時～17時
会 場／姫路キャッスルホテル 3階 雅扇の間
主 催／獨協会
共 催／姫路獨協大学
協 賛／姫路獨協大学同窓会、播磨経済文化フォーラム
参加費／無料
対 象／一般市民、大学関係者

基調講演

<講師>

グレゴリー・クラーク（多摩大学学長）

「学生に魅力のない大学は生き残れない。」1989年に開学した多摩大学は、「休講なし」「退学勧告あり」という時代を先取りした学生本位の大学づくりを進めてきた。

シンポジウム

<シンポジスト>

グレゴリー・クラーク（多摩大学学長）

江草安彦（川崎医療福祉大学学長）

米田徳夫（姫路商工会議所会頭、ヤマトヤシキ代表取締役社長）

<コーディネーター>

小室豊允（姫路獨協大学学長）

※申込み、問合せは、姫路獨協大学総務課総務係までご連絡ください。（電話0792-23-2211）

獨協会とは…

獨協会は、獨協学園各学校（獨協大学、獨協医科大学、姫路獨協大学、獨協中学校・獨協高等学校、獨協埼玉高等学校）の教職員・同窓生・父母その他会の趣旨に賛同された有志をもって組織された団体です。

